

ケーススタディ 多職種連携の役割・視点の違いを知ろう

【状況設定シート】

家族構成

川崎 A夫さん (68 歳) 市役所に勤めていましたが、定年後は嘱託職員として働いていました。65 歳でそれも辞め、今は市が運営する市民農園を借りて、野菜作りを趣味にしています。妻は 5 年前に脳腫瘍で亡くなり、今は引きこもりになった長男 (C 助さん) と二人で生活しています。長女 (D 子さん) は結婚し、夫と中学 3 年生の娘との 3 人で暮らしています。A 夫さんの性格は温厚で、地域の清掃活動や子どもの見守り隊などの活動にも積極的に参加しています。

川崎 B 子さん (享年 57 歳) 5 年前に脳腫瘍で死亡。A 夫さんは、毎日病院に通い、最期まで見守り続けていました。

川崎 C 助さん (35 歳) 中学生の時にいじめにあったことがきっかけになり、学校へ行かなくなりました。その後も、家族と話すときにも手や声を震わせることがあり「人に会うのが怖い」と言い、外に出ることは無くなりました。病院では「社会不安障害 (対人恐怖症)」と診断されました。もともと神経質で小さなことにもこだわる性格や、人見知りもあったことで、学校での友人関係もうまく築けなかったようです。今ではずっと、自分の部屋に引きこもっています。また、糖尿病を患っており、外出できないことから訪問診療を受けています。毎日数回、インスリン注射をしなければならず、食事にも気をつけなければなりません。そのことも家族にとって大きな負担になっています。

旭川 D 子さん (40 歳) A 夫さんと同じ市内に夫 (旭川 E 太郎さん) と娘 (旭川 F 実さん) との 3 人で暮らしており、パートの仕事をしています。D 子さんは弟の C 助さんのことを心配していて、時々、様子を見に行き、食事をつくったり、掃除をしたりしています。

旭川 E 太郎さん (45 歳) 不景気のあおりを受け、勤めていた会社が倒産してしまい、今は雇用保険から失業手当を受給しています。家族のためにも再就職先を探していますが、もともと心臓に持病があり、身体に負担のかかる仕事には就けないため、なかなか仕事が見つかりません。このままでは、生活基盤となる収入を得られない状況が続き、家族の暮らし向きが苦しくなります。生活保護を申請することも頭をよぎる等、精神的にも肉体的にも辛い状況です。

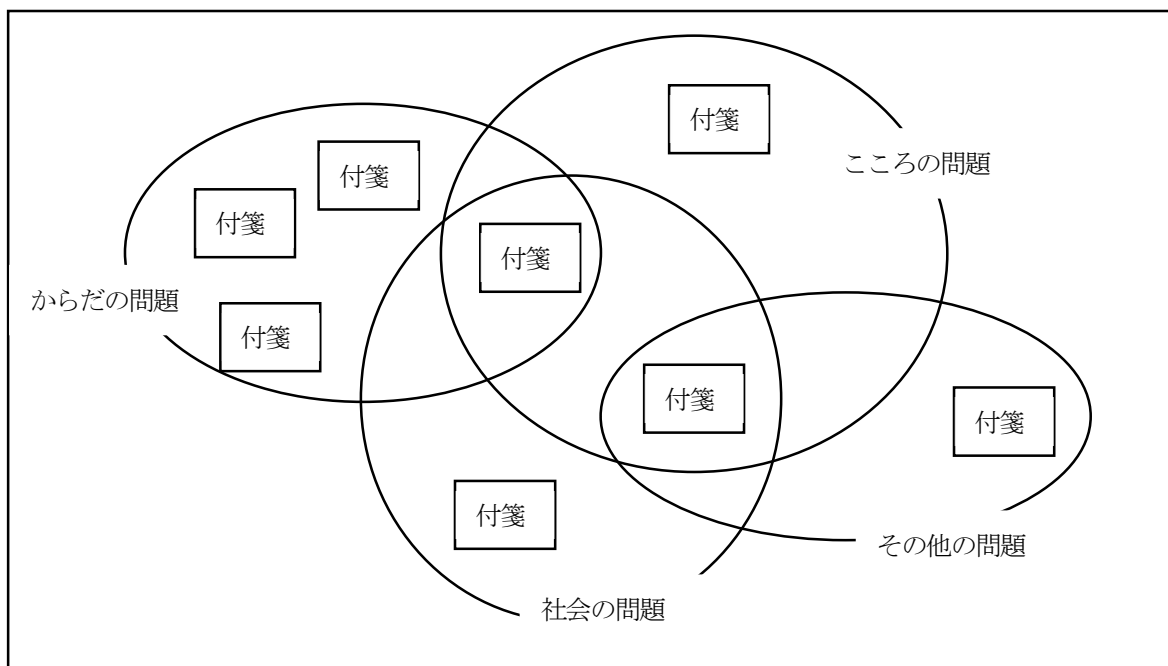
旭川 F 実さん (15 歳) F 実さんは中学 3 年生で、高校受験を控えています。F 実さんは C 助さんのことが大嫌いで、F 実さんは A 夫さんの家に行くことはありません。受験を控えた F 実さんは神経質になっており、お母さん (D 子さん) にも A 夫さんの家には行ってほしくないと考えています。

ケーススタディ 1 出来事シート

ある日、A夫さんは、いつものように自転車に乗って市民農園に行く途中、側溝に落ちてしまい、脚を骨折してしまいました。すぐに近くにいた人が救急車を呼んでくれたので病院に行くことができました。怪我の具合はひどく、骨折の治療のために、人工関節を入れる手術を受けることになりました。そのため術後のリハビリを含む長期の入院が必要となりました。また、入院時に実施した検査の結果、A夫さんが「糖尿病」に罹患していることもわかりました。骨折治療と並行して、薬物治療や食事療法などの糖尿病治療も必要な状況となりました。このような経過から、家にはC助さん一人になってしまうため、これまで以上にD子さんのサポートが必要になります。

問) ①この出来事により、川崎さん、旭川さん一家にはどのような「困り事」があるでしょうか。思いつくことを1枚の付箋に一つずつ、できるだけたくさん(10個以上)書いてください。この作業は個人個人でおこなってください。

②グループ毎に①で出てきた付箋を、「身体の問題」「こころの問題」「社会の問題」「その他の問題」に分類し、模造紙に貼って行ってください。もちろん重なる部分もあると思います。マジックを使って、下の図のようにそれぞれのグループを○で囲み、そこに関係すると考えられ問題を貼り直してください。



ケーススタディ 1 ワークシート

部屋番号：

班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名

川崎さん家族、旭川さん家族のそれぞれにどのような「困り事」があるでしょうか。

（川崎さん家族）

（旭川さん家族）

ケーススタディ 2 出来事シート

入院中のA夫さんは、C助さんのことが気になっていて、1日も早く家に帰りたいという希望を持っています。

今は、D子さんがC助さんの食事を作ったり、洗濯や掃除をしてくれていますが、娘のF実さんの反抗的な態度がどんどんひどくなってきていることをすごく心配しています。先日も学校で友達とけんかをし、担任の先生から連絡がありました。いつまでもこのような生活を続けることはできないと考えています。

A夫さんは、術後のリハビリにも積極的に取り組んでいますが、歩行にも介助が必要な状態です。早期の退院を希望していますが、歩行を含む日常生活の動作が安定して行えるまでは、まだしばらくのリハビリが必要な状況です。

A夫さんの自宅は、古い日本家屋で、段差も多くあります。A夫さんが介助を必要とする状態で自宅に退院した場合には、C助さんとの二人暮らしでは、安全に暮らすことが難しいかもしれません。入院中の今は、D子さんがA夫さんの自宅を訪ね、C助さんの身の回りの世話や家事を担っていますが、負担も大きく、長期的には困難が生じることが予想されます。C助さんは、引きこもりの生活をしているため、近所や友人との交流はありません。糖尿病の訪問診療に来る医師への対応にもC助さん一人では、どのように対応したらいいのかわからず困っています。C助さんの糖尿病を悪化させないためには食事療法は欠かせませんが、その食事の調理や手配にも困っています。

E太郎さんは、毎日のようにハローワーク（公共職業安定所）に行っていますが新しい職も見つかりません。このままでは生活保護を受けるしかないと考え福祉事務所に相談に行きますが、まずは仕事を探してみましようという提案されるため、途方に暮れています。

問：もしこの段階で川崎さん一家、旭川さん一家に関わる場合、看護師、管理栄養士、社会福祉士、臨床心理士、理学療法士はどのような支援ができるでしょうか？資料II「ケーススタディ 2-1 ワークシート」にまとめましょう。

ケーススタディ 2-1 ワークシート

部屋番号：

班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名

もしこの段階で看護師、管理栄養士、社会福祉士、公認心理師、理学療法士が川崎さん一家、旭川さん一家に関わる場合、それぞれの職種の方はどのような支援ができるでしょう？

看護師-----

管理栄養士-----

社会福祉士-----

公認心理師-----

理学療法士-----

ケーススタディ 2-2 ワークシート

部屋番号：

班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名
班番号	学科	学籍番号	氏名

連携する支援	キーワード	連携内容

キーワード例：

家族，生活，入院中の状態，医療者間の情報共有，患者・家族への情報提供，
不安，目標設定，治療，方針決定，転院